

子どもたちの見守りに 高齢者の力を!



たかだ
高田さん (37歳、女性) 私は子どもが生まれる前から仕事を続けています。子育てと仕事の両立は体力的にも精神的にも大変ですが、ご近所や学校の保護者同士のつながりもあってなんとかやってこれています。

こまきね
駒木根さん (70歳、女性) 最近、働くお母さんが増えてますよね。小学生の孫の学習発表会に行くと、共働きの家庭のお母さんは来ていないことがあります。でも、私たちのような、おじいちゃん、おばあちゃんは時間があるので、子どもたちを見守ることができますね。



市長 共働きのご家庭を助けるために、市では児童会館など、子どもたちの放課後の居場所を整備しています。また、駒木根さんがおっしゃるように、高齢者を含め、地域全体で子どもたちを支えていくことが大切だと思います。

わたべ
渡部さん (45歳、女性) そうですよ。でも最近は近所付き合いも希薄になっていて、近所の子どもを叱りづらくなりました。「うちの子は放っておいて」というような考えの人が多くてちょっと寂しいですね。



こじま
小嶋さん (70歳、男性) 学童保育を地域の高齢者が引き受ける、というのはどうでしょう。子どもたちの話し相手になったり、歴史を教えてあげたりするだけでもいい。また、私の住む共同住宅にはスキーがとても上手な高齢者がいます。そういう技術や知識のある人がもっと地域で活躍できれば、子どもを見守ると同時に成長させることにもつながります。

の お み
能味さん (35歳、男性) これまでのお話を聞いて、私たちの世代も何かしなければいけないと思えてきました。私達も経験豊富な高齢者の皆さんに学びながら、地域の中で動いていかなければならないですね。



市長 そうですね。高齢化は社会問題だといわれていますが、実は地域を支える層が増えるということなのです。高齢者が自分のお孫さんだけでなく、近所の子どもたちにも気軽に声を掛けるような、地域の関わりが深まる仕組みをつくっていきたいですね。

